

美浜2号炉事故20年にあたっての公開質問書

今年、1991年2月9日に美浜2号の蒸気発生器において、一次冷却水が流れる伝熱管が破断した事故から20年に当たります。

美浜2号のSG細管破断事故は重大事故の一手手前まで迫る危険なものでした。貴社の原発には老朽化したにもかかわらず、長期運転を目指すと思われるものがいくつもあります。しかも貴社の11基の原発はどれも、直下や周辺に活断層を抱えている極めて危険な存在です。

美浜2号のような事故や地震による原発事故が起こる前に、貴社の原発を停止すべきです。

昨年10月26日の交渉では、プルサーマル、美浜1号の後継炉、中間貯蔵などの問題で質疑をしました。その後貴社の八木社長が記者会見で新たな発言をするなど、私たちとしても質問をしたい点が新たに現れてきました。ここに、質問項目を提出しますので、2月9日の交渉までに文書にて回答されるよう求めます。

1. 高浜3号でのプルサーマル運転について

1-a 貴社が高浜3・4号で使用するMOX燃料36体の製造を2010年内に製造する計画から、2010年に20体、2011年に16体製造する計画に変更した件に関し、その原因が「2010年2月から6月にかけて、メロックス工場において複数の材料取扱設備の故障が発生したこと」としている点について、昨年10月26日の若狭ネットなどとの交渉において、貴社は「設備の故障については材料を取り扱う設備であり、それらが当社向けMOX燃料の品質に影響を与えていないことを確認している。従ってメロックス社におけるMOX燃料製造に問題があるとは考えていない」と回答しました。

一方、貴社が材料取扱施設とは「材料をハンドリングする施設」と答えたので、「材料とは二酸化プルトニウムと二酸化ウラン」だどこちから聞くと「そこは答えできない」と回答を拒否しました。

「材料取扱施設」とは何の工程なのでしょう。「材料」とはいったい何のことなのでしょう。

その内容によっては、ペレットの品質の欠陥につながる可能性を生じるので、貴社が10月26日に答えた「設備の故障については材料を取り扱う設備であり、それらが当社向けMOX燃料の品質に影響を与えていな

い」とする説明が成り立たなくなります。

「材料取扱施設」と「材料」について明確に説明してください。

1-b 同じく前回の交渉で、故障が起きた工程が燃料ペレット製造工程の前の工程であって、そのあとの燃料棒被覆管の工程ではないことを聞いたときも、「そこはお知らせしていないですけど、複数の工程で故障」として、きちんと答えてもらっていません。

「複数の工程」との説明ですが、材料取扱以外に、どの工程で故障があったのか、お答え下さい。

1-c 昨年12月の毎日新聞福井版で企画された特集記事「高浜プルサーマル発電：10年越しの始動」では、その3回目の12月21日の記述の中に、貴社の原子力事業本部燃料技術グループチーフマネージャー木村公英氏からの取材として次のような表現があります。

「新たに製造元になったメロックス社（当時コモックス社）では、関電がBNFLでのデータ不正を説明すると、相手の上層部は『我々はBNFLとは違う』と激怒。『英国人と一緒にするな』とプライドを刺激したようで、以降はBNFLを引き合いに出せなくなったという。製造工程への立ち会いにも当初は『燃料を製造しない電力会社に何が分かる』と難色を示され

た。『具体的な意義を一つ一つ説明し、納得してもら
うしかなかった』と木村さんは振り返る」

これは明らかにメロックス社が関西電力に対し、品
質保証体制の問題に一切口を出させない態勢で臨んで
いることを明示しています。品質問題では相手にされ
ていないということです。

貴社が品質問題でメロックス社から相手にされてい
ないという状況はこのとおりですか。

1－d さらに、その記事の最後にこう書かれていま
す。

「新たな工場で燃料製造を一からやり直した関電だ
が、なお課題も残る。09年8月、関電は小浜市役所
で記者会見を開き、『製造中の燃料ペレットの一部に
品質上の不適合が見つかった』と発表した。だが製造
数の4分の1が不良でも、品質の一体何が問題なの
かは『メロックス社との契約上の守秘義務』を盾に明
らかにしなかった。記者たちは『住民の安心のために
公開を』と詰め寄ったが、関電は『最後は関電を信用
していただくしかない』と繰り返した。最近の取材に
対しても『メロックス社と侃々諤々(かんかんがくがく)
の議論をしたが駄目だった。国や県には報告して判断
を仰いだ。安全は保証されている』としている」

メロックス社との間では、貴社はMOX燃料に関し
てどこまで情報を公開されているのですか。

また、メロックス社はその情報のうち「企業秘密」
として公開を禁じているのは、何の情報ですか。

1－e 第二再処理工場については、原子力政策大綱
において2010年頃からそのあり方について検討を開始
するとされていますが未だに手が着かない状態です。
プルサーマルを開始しその使用済燃料が蓄積しても、
搬出先が決まっておらず、このままでは高浜原発敷地
内に留め置かれる可能性が高いのですが、貴社の見解
はいかがですか。

1－f 現在高浜3号に装荷されている8体のMOX
燃料の購入額を教えてください。

既に、貴社は私たちとの公開討論会において、MO
X燃料がウラン燃料より7～9倍コストが高いと質問
したのに答えて、これを認めました。

現在においても高コストであることに変わりがあり

ません。

ウラン燃料以上に重大事故の危険を高め、高コスト
で、使用済みMOX燃料の再処理施設の目途もない、
プルサーマルを推進する理由を教えてください。

2. 美浜1号10年延長と美浜4号増設計画について

2－a 貴社は昨年12月13日、美浜原発周辺の現地調
査を開始しましたが、かつては美浜町の原発増設要求
を拒否していたのに、手の平を返すように増設のため
の調査を開始したのはなぜですか。

2－b 美浜原発はB断層系、野坂断層などの活断層
などを直下に抱えています。そこでマグニチュード7
クラス以上の地震が発生すれば、短周期の地震動が原
発の機器を襲いますが、このように危険な地点にあえ
て美浜4号を増設する計画を立てたのはなぜですか。
説明してください。

2－c 貴社は「関西電力グループ長期成長戦略2030」
の中で次のように述べています。

「海外発電事業（IPP事業）を主軸とし、グルー
プの技術力を活かして、相手国における電力インフラ
整備と安定運用に資するとともに、スマートグリッド
関連技術などの、送配電や電力利用分野でのコンサル
ティングにも取り組みます。

また、原子力分野については、国をはじめ、メーカ
ー等と協調し、技術支援などを行い貢献します」

「これらの事業活動を通じて、グループの収益拡大
にも寄与すべく、海外発電事業における発電所出力合
計（出資割合分）を現在の約80万kWから、203
0年には約500万kW（販売電力量で約200億k
Wh）まで拡大させたいと考えています」

これは明らかに原発とその運転ノウハウの輸出であ
り、私たちが中止を求めてきたものです。

美浜4号の計画はこれと並列的に推進されており、
時期的にも全く重なっています。私たちは貴社の美浜
4号の計画は原発輸出と不可分であると考えていま
す。

いかがですか。

2－d 八木社長は年頭に当たり、美浜1号の停止時

期について、「美浜2号の高経年化技術評価の結果、敦賀3・4号からの受電計画、関電の電源構成のあり方を十分検討して今年秋ごろにはっきり示したい」としています。

日本の景気が停滞から低下の傾向へと移行する中で美浜1号の復水器をわざわざ高価なチタン製のものに交換するなど、運転延長に向けて準備を進めています。美浜1号運転延長の目的を説明してください。

それより、あっさり美浜1号の廃炉を即決し、再生型エネルギーへの転換を打ち出し、時代の先端をリードする環境重視型企業に衣替えすべきではありませんか。

2-e 前回交渉において、美浜4号炉をやらないことも検討しているならと聞いたときに、貴社は「コスト問題が発生したらやらないケースもあるのかなあ」という状況にいます」と断言しましたが、「コスト問題」とはいったい何のことでしょうか。わかりやすく説明してください。

2-f 美浜2号の運転について八木社長は、「問題がないことが確認できれば出来るだけ長く運転する方向でという気持ちは持っているが、高経年化技術評価の結果を待って判断したい」と答えています。1972年に運転を開始した美浜2号は今年で39年です。老朽化の激しいこの原子炉を稼働40年を越えて運転するなどもってのほかです。即刻廃炉にするべきです。いかがですか。

2-g 八木社長は年頭の記者会見で、中間貯蔵施設については「県外を基本に、中間貯蔵施設設置をしっかりと進めていきたい」と答えるのと合わせて、将来的に県内に施設を導入するかについて「全くないのかと言われれば、そんなことはない。リスク管理としてしっかり検討したい」と、いわば両論併記の形で回答しています。貴社はいつまでに中間貯蔵の立地点を決めるのですか。

2-h 「リスク管理」とは、浜岡6号の増設でも計画されているように（使用済み燃料乾式貯蔵施設）、使用済み燃料の貯蔵に向けて、美浜4号の敷地内に設置する使用済み燃料貯蔵施設を、美浜1・2・3号共

用と位置づけ、それを事実上の中間貯蔵施設にしてしまうという構想を含んでいるのですか。

2-i 美浜4号の時代には、高燃焼度燃料の利用が進むと考えられます。高燃焼度の使用済み燃料の再処理は、超ウラン元素が大量に発生することにより、MOX同様に溶解しにくい成分が増え、困難の度合いを強めることは明らかです。

六ヶ所再処理工場でのトラブルが日常茶飯事の状態が予測されます。

そのようなときに、美浜4号の使用済み燃料の搬出先が確保できないという事態が十分あり得ると見るのが常識的な判断です。

美浜4号からの使用済み燃料は、MOX燃料同様永久貯蔵になるのでしょうか。

3. 中間貯蔵施設について

3-a 六ヶ所再処理工場はガラス固化のための溶融炉のトラブルの原因もわからず、他のトラブルも数多く生じるなど、稼働の目途がいつまで立っていません。

一方、貴社が掲げる中間貯蔵計画は名ばかりで、使用済み燃料を搬出できる可能性は皆無といってもよい状態です。貴社は人々を欺きながら、中間貯蔵を進めています。

貴社は中間貯蔵計画をやめるべきです。いかがですか。

3-b 御坊市での中間貯蔵計画の問題では、御坊市議会選挙を控える中、地元紙は選挙戦の争点でないと断言しています。八木社長は以前、御坊市については「詳細な検討」と答えていたにもかかわらず、前回交渉で記者側は「文献調査以外にやっていない」、「(航空写真で調べているかは)知らない」と答え、社長の積極的姿勢とは相反する態度でした。

福井県内への計画と御坊市内への計画について、貴社の現在の見解を示してください。

以上